

心に響く金子みすゞの詩

3冊の遺稿手帳 県内初公開

岡谷市のイルフ童画館で、童謡詩人の金子みすゞ（1903～30年）に焦点を当てた企画展が開かれている。県内では初めて公開される3冊の遺稿手帳をはじめ、直筆による童謡の写真パネル、関連資料など約200点を展示。みすゞの詩を基にして制作された現代作家の絵本原画、立体作品もそろう、心に響く詩の魅力に迫る。24日まで。（小山眞由美）

24日まで イルフ童画館企画展



金子みすゞの詩とモチーフになった立体作品などを紹介する企画展

みすゞは山口県生まれ。1923年、四つの雑誌に作品が掲載され、鮮烈なデビューを飾った。「若き童謡詩人の中の巨星」と称されたが、26歳の若さで他界。没後その存在が長く忘れ去られていた中、遺稿手帳が見つかり、「金子みすゞ全集」として発行され、注目を集めた。

ペンネームの「みすゞ」は、信濃に掛かる枕詞「みすづかる」に由来し、信州にゆかりのある作家。子どもにも分かる優しい言葉でありながらも奥深い詩は、15カ国語に翻訳され、多くの人に親しまれている。

会場では、みすゞが詩や言葉をつづった遺稿手帳を展示。岡谷市出身の童画家、武井武雄（1894～1983年）が描いた児童雑誌「コド

モノクニ」の表紙についての記述もあり、深い関心をつかぎたいことができる。

「みんなちがって、みんないいの言葉で知られ、小学校の教科書にも掲載されたみすゞの詩「私と小鳥と鈴と」。感銘を受けた現代作家らによって作品の題材となり、コーナーには多彩な絵本の原画が並ぶ。本展のために創作された立体作品も併せて飾っている。同館は「人柄がにじみ出るようなかわいらしい文字でつづっている。100年を超えて読み継がれるメッセージが伝われば」としている。

開館時間は午前9時～午後6時。休館日は水曜日。入館料は一般520円、中高生310円、小学生160円。問い合わせは同館（電話0266・24・3319へ）。



3冊の遺稿手帳